

# 江澤義典先生の定年ご退職にあたって

総合情報学部長 桑原 尚史

江澤義典教授が定年を迎えられ、ご退職になる。それにあたり、先生のご功績を紹介し、感謝の辞を述べたい。

まず、先生のご経歴を紹介しよう。江澤義典教授は、1970年3月に大阪大学基礎工学部電気工学科を卒業後、大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程、さらには博士課程へと進まれ、1975年の博士課程修了と同時に、本学工学部に助手として就任され、1976年に専任講師、1979年に助教授へと昇任された。そして、1994年4月、総合情報学部の開設とともに当学部に教授として着任された。

先生は、これまで、人工知能の理論的研究、ファジィ情報処理システムの設計開発、データベース管理技法の開発といった主題のもと、精力的に研究活動を展開してこられた。また、近年においては、情報倫理の問題に着目され、深い知識とこれまでの豊富なご経験から社会に対して数多くの提言を行ってこられた。そして、日本情報倫理協会においては会長を務められ、また、日本ファジィ学会においては理事を務められ、学会の発展はもとより、情報技術の進展および情報倫理の啓蒙に尽力してこられた。

教育においては、先生は、講義科目については、基幹科目の「情報と倫理」および展開科目の「数理言語論」を担当され、「情報と倫理」においては情報モラルの育成の視点から情報技術に関する様々な倫理的な問題を講じられ、「数理言語論」では、アルゴリズムの設計技法をはじめとしてコンピュータ科学の知見を広範囲に渡って講じられた。また、演習科目の「専門演習」および「卒業研究」においては、知識表現の技法を主題とされ、熱心な議論を通して、数多くの優秀な人材を社会に送り出してこられた。

学部および大学の運営面においては、先生は、学部創設の準備段階より準備委員として学生主任取扱を務められ、学部開設と同時に学生主任を務められた。そして、1988年10月から4年間学部長代理を務められた。その後も学生相談主事を2008年10月より4年間務められ、この学部を絶えず支えてこられた。大学全体においては、評議員を1996年10月より4年間、大学協議会協議員を2002年6月より2年間および2008年10月より4年間歴任され、大学全体に対しても大きく貢献された。それ以外にも、工業技術研究所研究員、情報処理センターの運営とその充実に尽力され、大学の情報公開や情報環境の進展にも貢献をしてこられた。

このように、先生は、この学部の揺籃期および創生期からのまさに功労者である。そして、関西大学、さらには、学界、また社会に大きな貢献を果たしてこられた。先生のこのこれまでのご貢献に深く感謝をするとともに、先生のますますのご健勝とご活躍を祈念する次第である。

